



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和4年10月発行

子ども一人一人が輝いた「オール丹那運動会」

校長 土屋 貴俊

秋空の下、3年ぶりに丹那幼稚園児童・保護者・地域の皆様を交えたオール丹那運動会を実施することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。子どもたちは、「レッツトライ みんなで生み出す 丹那スマイル」のスローガンどおり、練習から当日まで新しいことや難しいことにも進んで挑戦し、仲間と協働し話し合いながら互いの力を高めてきました。



運動会当日は、子どもたち一人一人から自信にあふれた最高の笑顔が見られ、たくさんの元気や勇気をもらうことができました。参観していただいた皆様からも、「子どもたち一人一人が楽しそうに参加しているのが印象的でした。」という声をたくさんいただきました。全児童60名それぞれが主役として活躍することができました。

低学年の表現「ゆめをかなえて！」では、3年生の6名の子供たちが曲に合わせた踊りを考え、それを1年生や2年生に笑顔で教えていました。教わる側も楽しさを共有し、動きを自然に覚えていったように思います。高学年の表現「雲外蒼天」のソーラン節も6年生が2年間踊り体得した知識や技能、心構え等を4年生5年生に一つ一つ伝えていきました。どちらも上級生の思いに一生懸命応えようとする下級生の姿が見られました。

応援団長となった杉原さん石倉さんも自分たちの思いをどう表現していくかを考え話し合い、何度も練習を重ねてきました。そのがんばりを目の当たりにした下級生はその魅力に引き込まれ、チームとしての絆が深まり、運動会に向かう士気も高まっていきました。



また、臨時に係の仕事に依頼しても快く引き受けてくれる中学生も運動会の雰囲気盛り上げてくれました。

このように丹那小学校では、よき伝統が毎年引き継がれていきます。目の前にモデルとなり目標とする上級生が目の前にいるからです。5年生は、今年の6年生を見て、「来年は自分たちがリーダーとなって活躍するぞ」と誓ったことでしょう。

今年度は丹那音頭に加え「猫踊り」も多くの方と楽しく踊ることができました。これもまた、当日までに猫マスクや猫耳の製作に携わっていただいた方や、放課後に踊りの指導をしていただいた方がいてくれたおかげと感謝申し上げます。本当にまわりの皆様に支えられている学校であることを実感します。来年度は、150周年の記念運動会となります。多くの方をお招きしてさらに皆様と一体となり、地域が元気になれる運動会を目指していきます。